

岡本陸郎

自由の風

無垢の世界エッセイ集

RIKURO OKAMOTO



このファイルは、9/1の岡本陸郎様ご講演時の説明スライドを集約しています(一部省略)。ご講演の要旨(4ページ)を、ファイル後部に添付しています(参照のスライドNo.とも)

なお、講師から頂戴した、『口演原稿』を同じDBに、本ファイルと並べて収録しています。

アーティストへの道・アートの特性・必須要素

1



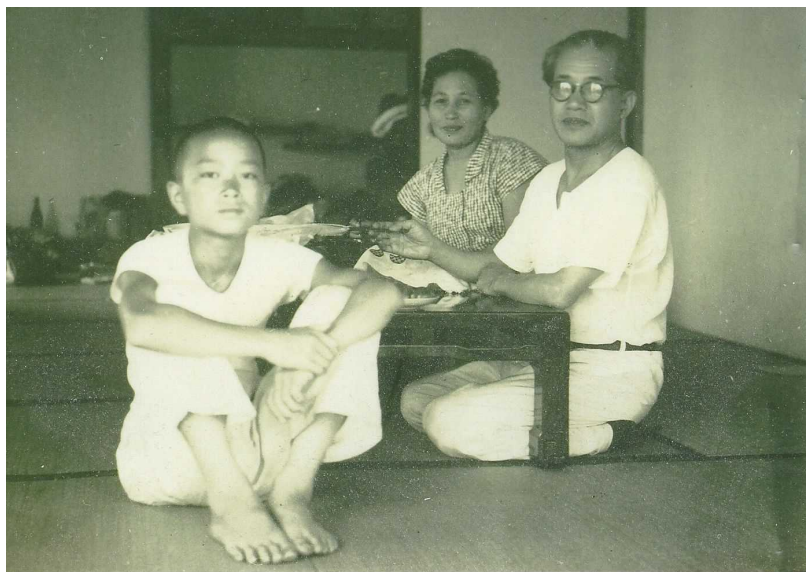
2



3



4



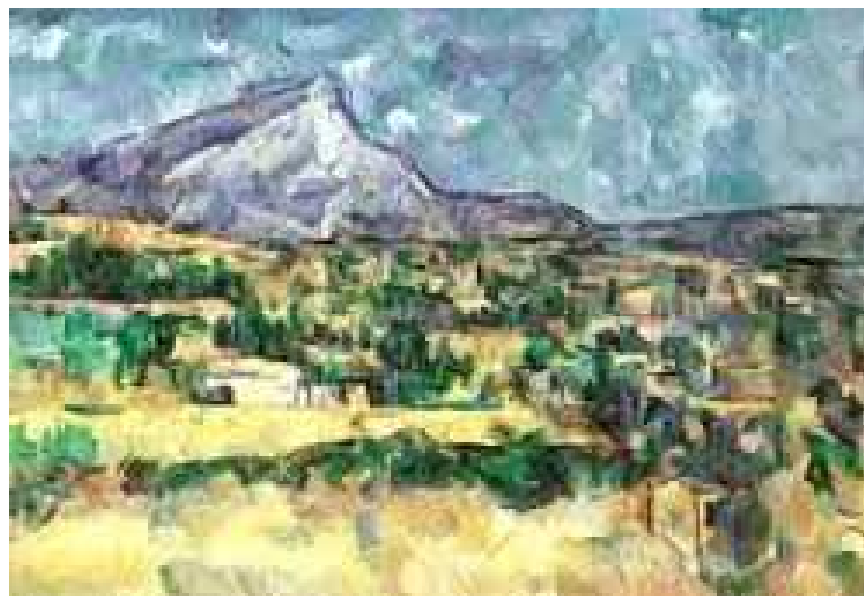
5



6



7



CÉZANNE-『サント=ヴィクトワール山』

8



CÉZANNE-『果物入れ、グラス、リンゴのある静物』 9



CÉZANNE-『赤いチョッキの少年』 10



Picasso

Pisasso-『ゲルニカ』

picasso



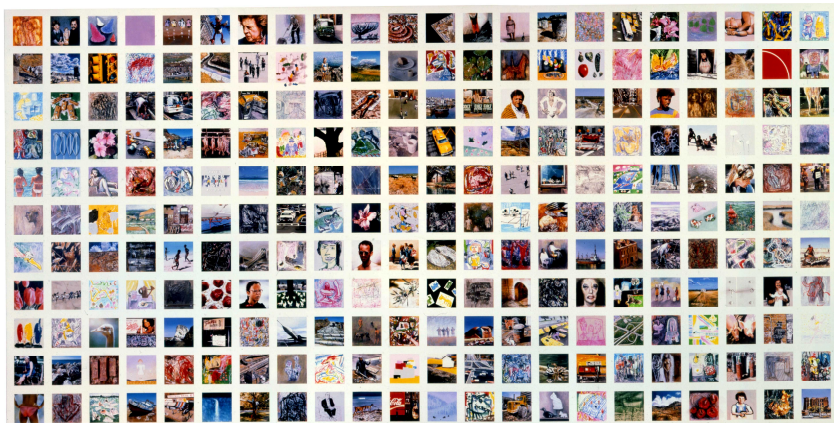
Pisasso-『にわとり』



Pisasso-造形作品



アート作品例 I -『動く壁』・『動く岩』
14



アート作品 II -『それからずっと...』



アート作品例 III -『動く岩』

岡本陸郎 RIKURO OKAMOTO

自由の風

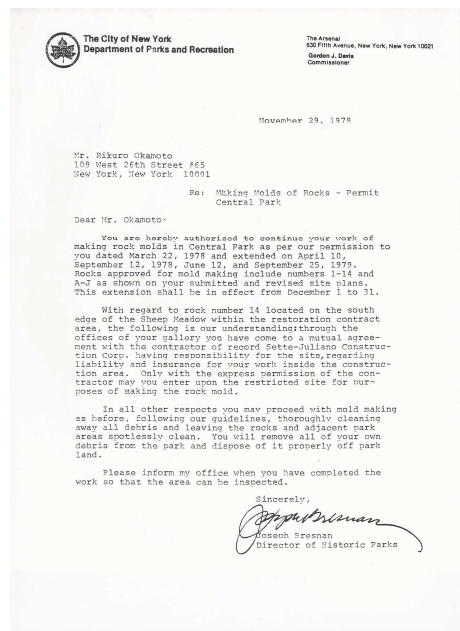
無垢の世界エッセイ集



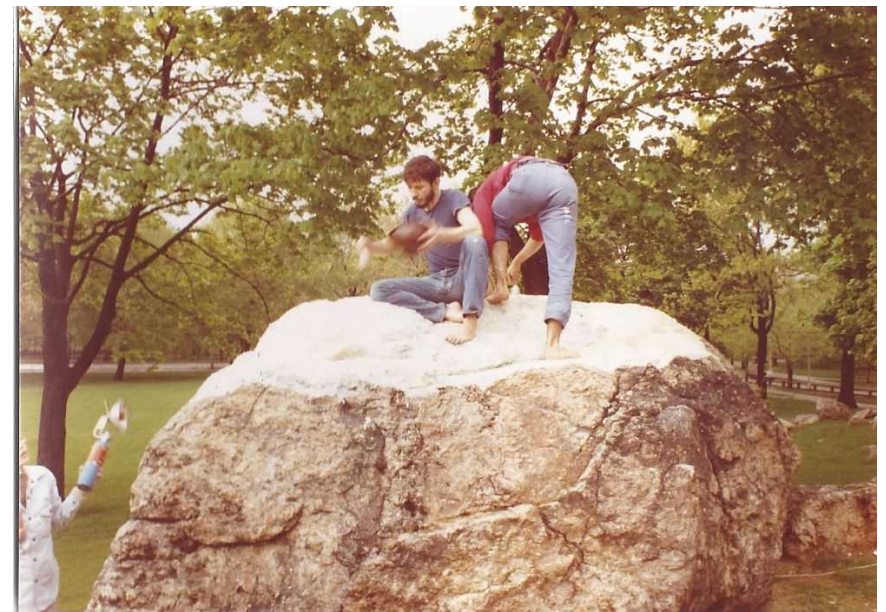
アート作品の実例・そして芸術家の生活



『動く岩』母型とりの作業メンバー



母型とりのNY市認可状



『動く岩』の母型とりを開始する



21



22



23



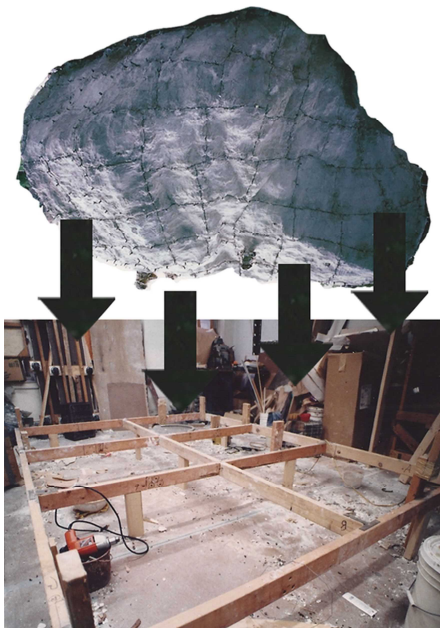
24



25



26



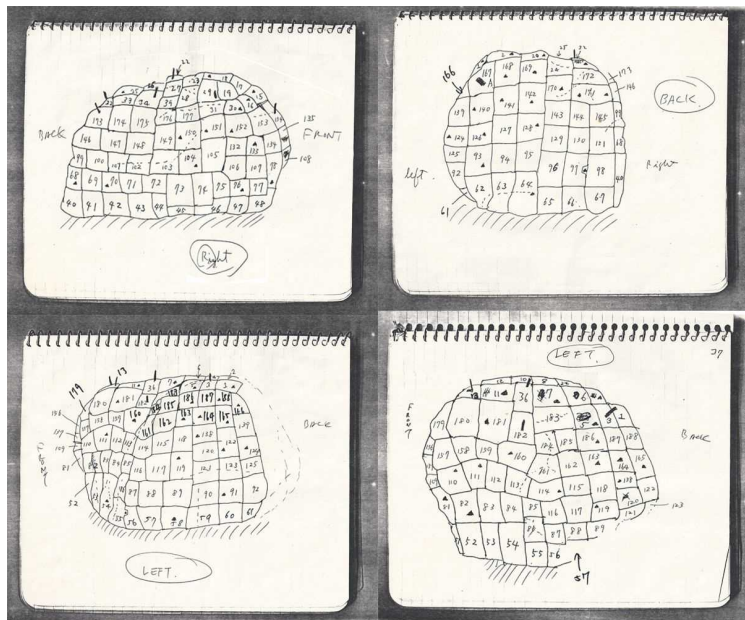
母型をアトリエに搬入

27



アトリエにて、母型を再構成

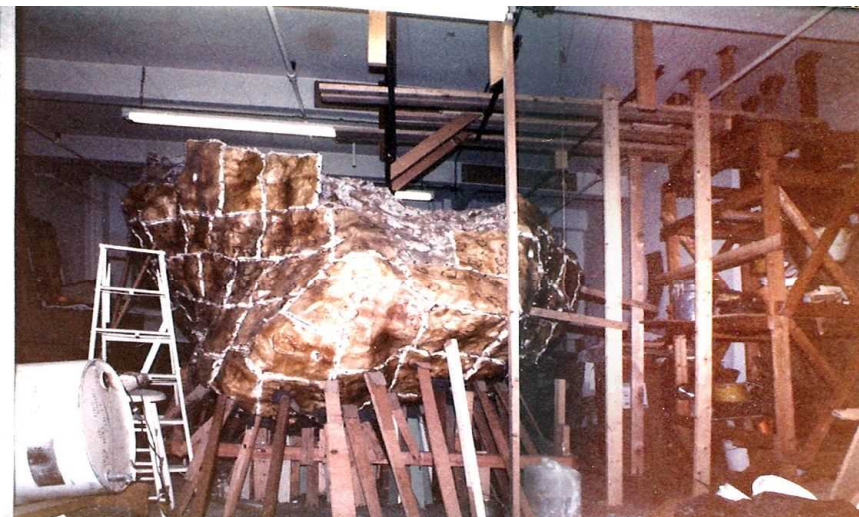
28



29



30



31



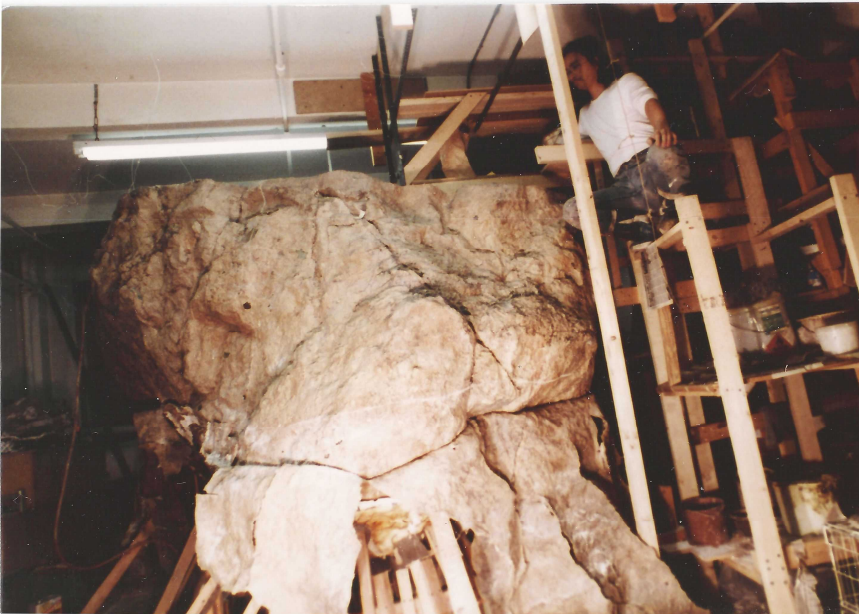
『動く岩』本体の制作中 32



33



34



35



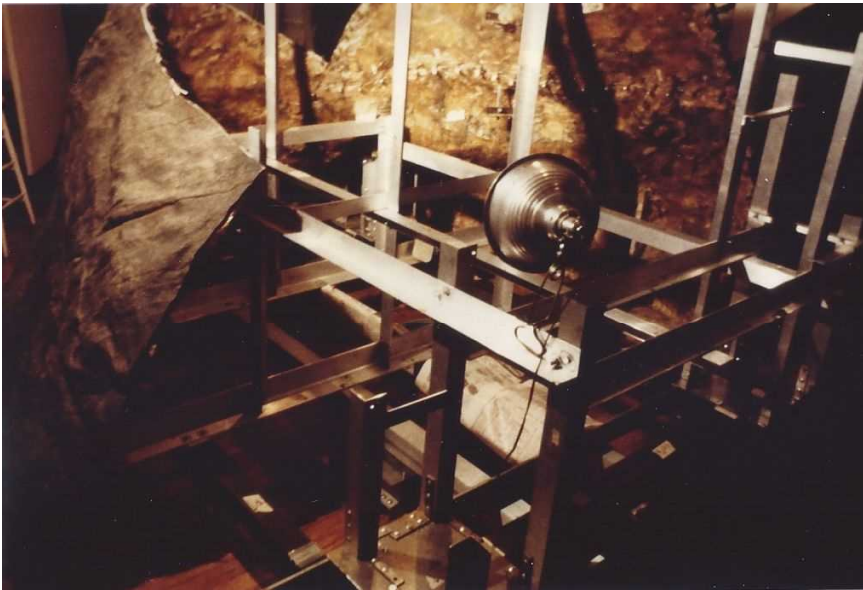
36



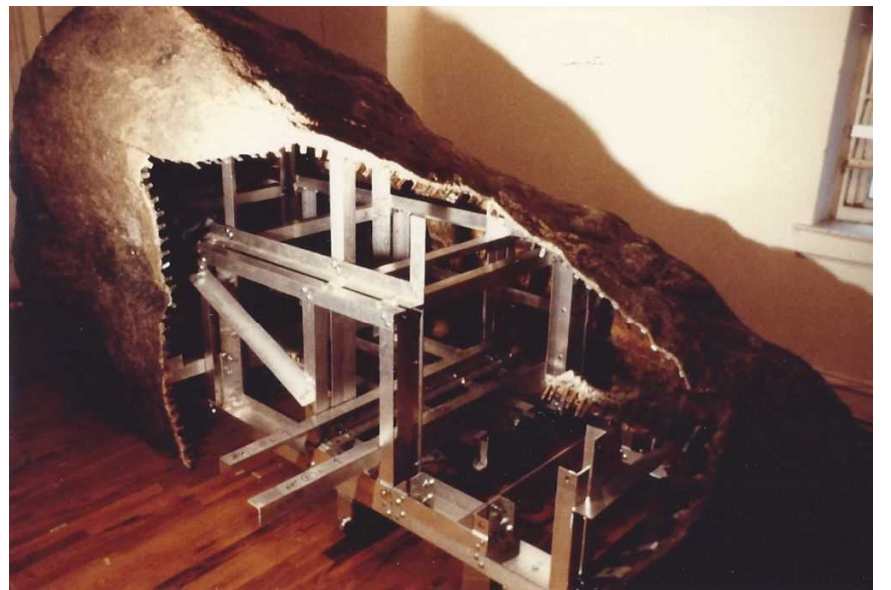
37



38



39

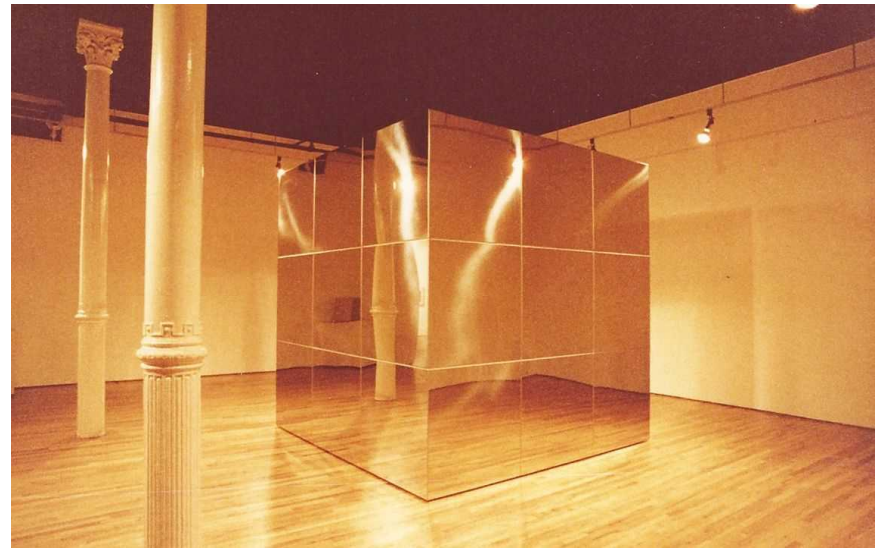


40



『岩』のオブジェ-完成品

41



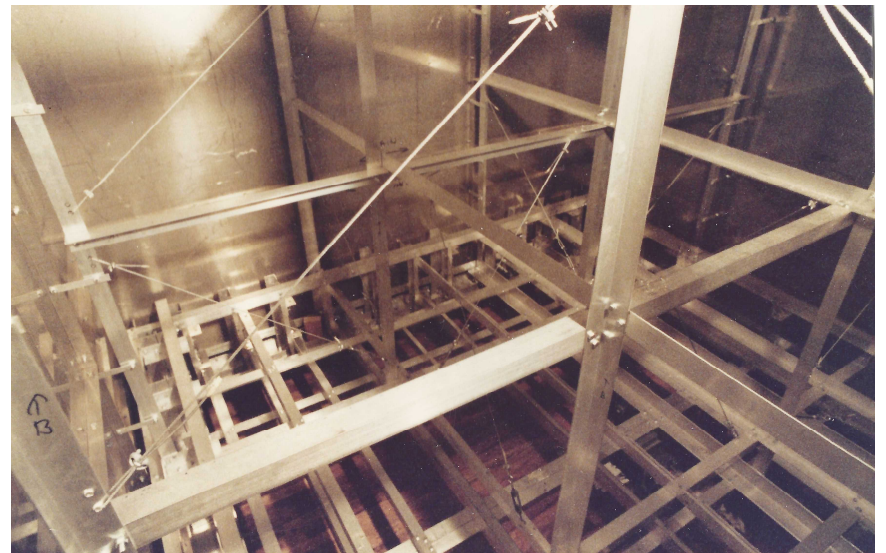
『動く壁』の表面

42

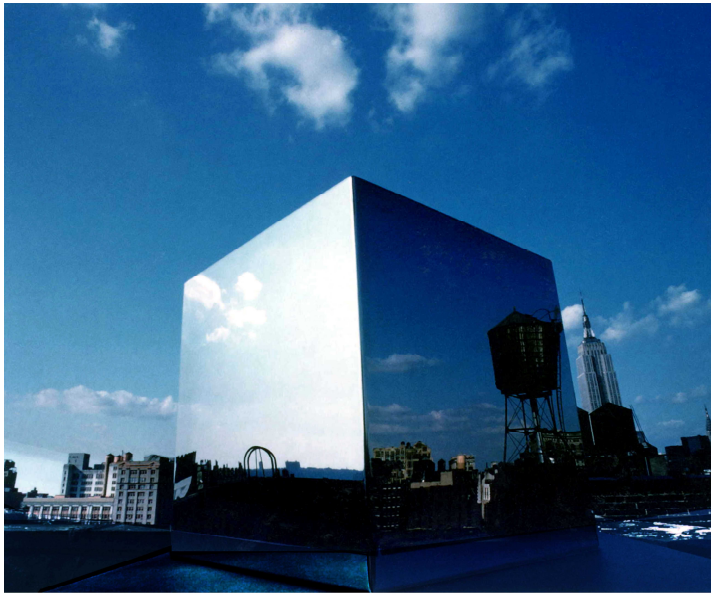


『動く壁』のベース

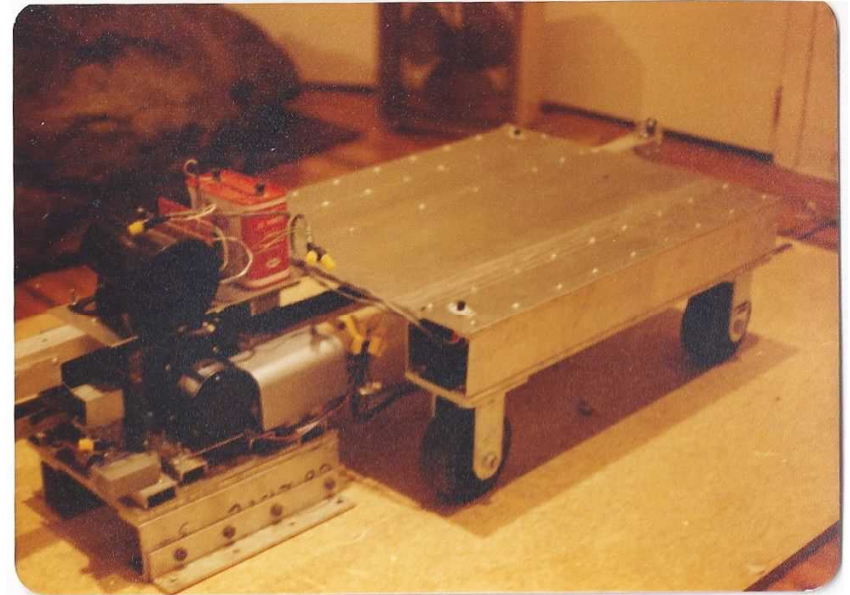
43



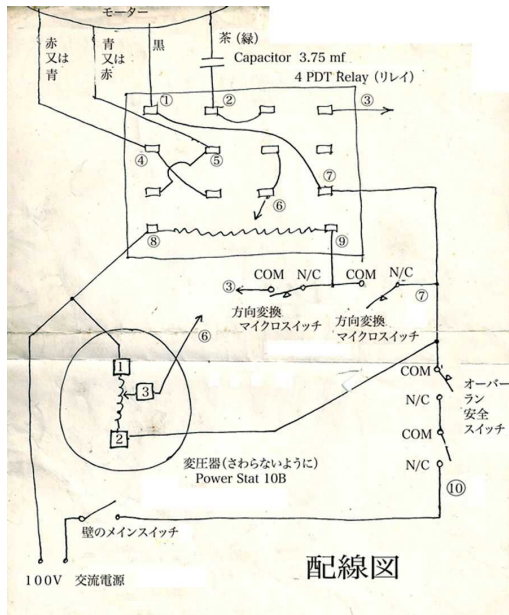
44



『動く壁』の表面



岩を動かす台車と...



...その構造図



『動く岩』の展示場



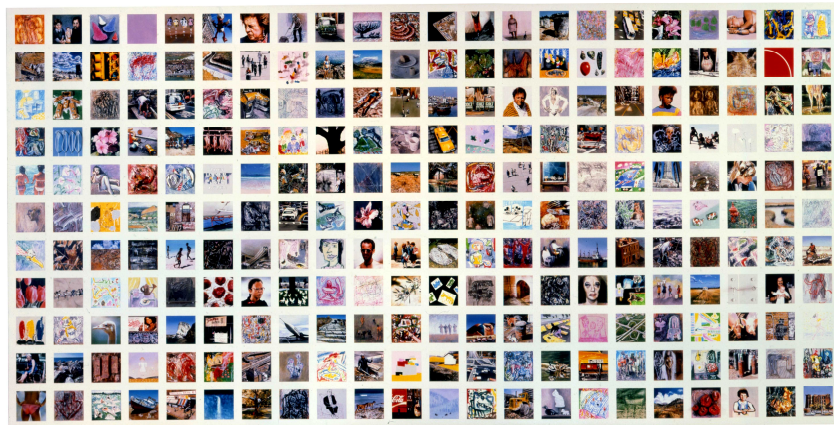
カーナ美術館

『動く岩』の展示場



ニューヨーク セントラルパーク 美術関係者による『動く岩』の現物を見る会 2011年3月12日

制作関係者のメモリアルミーティング



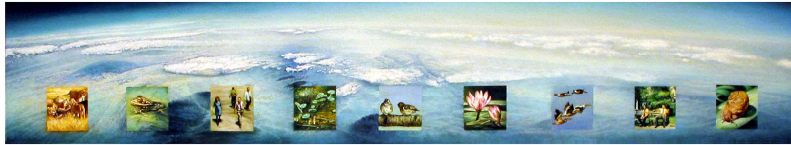
それからずっと中絶に陥りましたとき、とある日... / They lived happily ever after, Inc.

さまざまのモノを、あるがままに、存在することの感動を描く



漂うもの-1

90×210cm
キャンバスにオイル



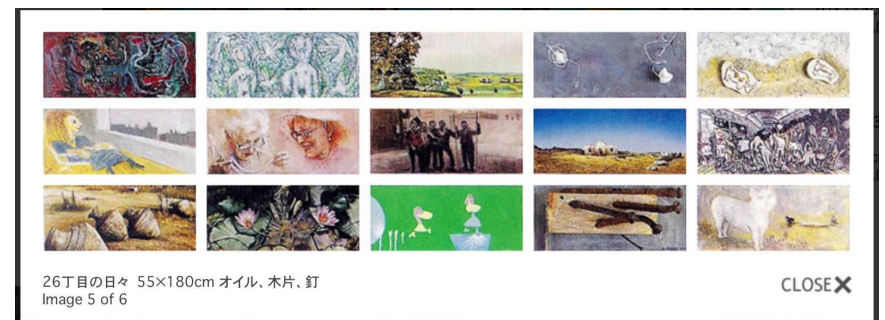
漂うもの-5 / Floating Matter-5

岡本陸郎美術館 Rikuro Okamoto Museum 大分県玖珠郡九重町大字蔵押瀬の本628-15



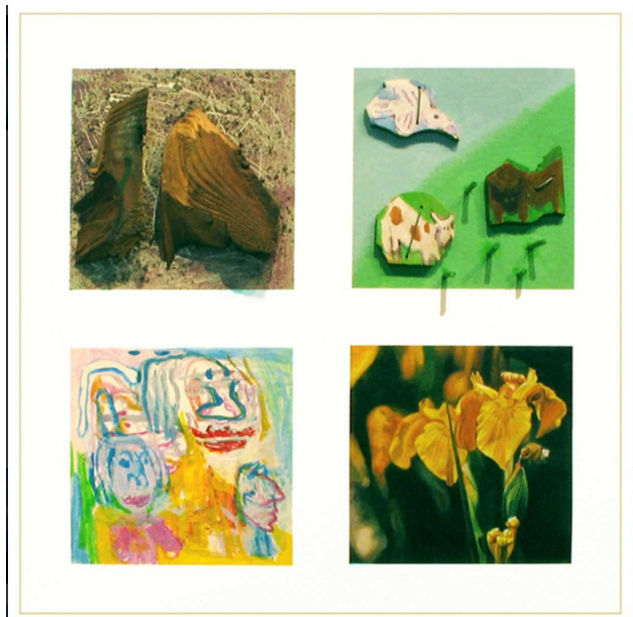
漂うもの-3 / Floating Matter-3

岡本陸郎美術館 Rikuro Okamoto Museum 大分県玖珠郡九重町蔵押瀬の本628-15



26丁目の日々 55×180cm オイル、木片、釘
Image 5 of 6

CLOSE X



モンゴル草原でのアート活動- I



モンゴル草原でのアート活動- II

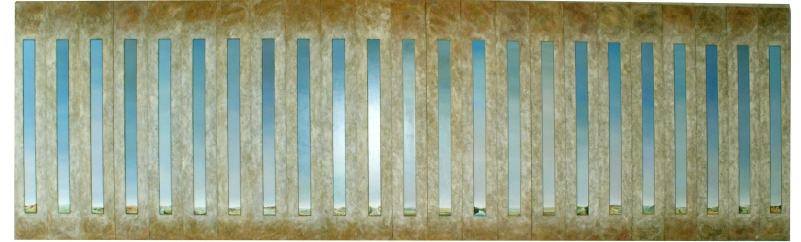




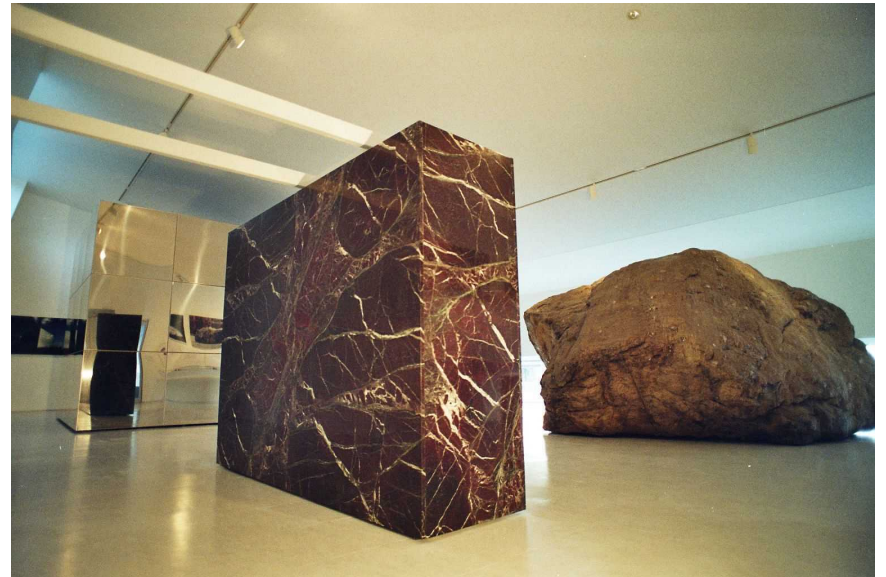
大岡山百年記念館



「風景」



大分九重-阿蘇近く美術館- 『アーティスト自身を表現』





美術館内-『あれこれ、身近の自然情景を描いた
アーティスト自身を表現する作品』

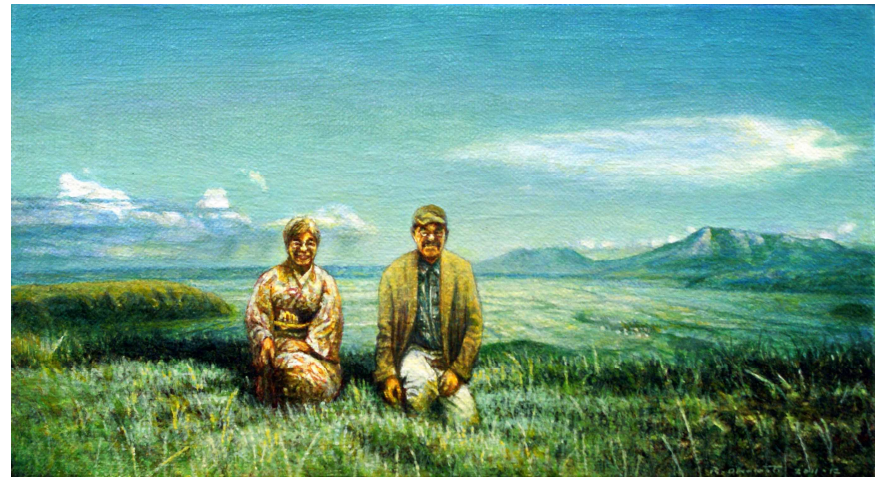
65



66



67



68



69



70



71



72



73



NYマンハッタン26丁目-アーティストのアトリエ

74



75



76

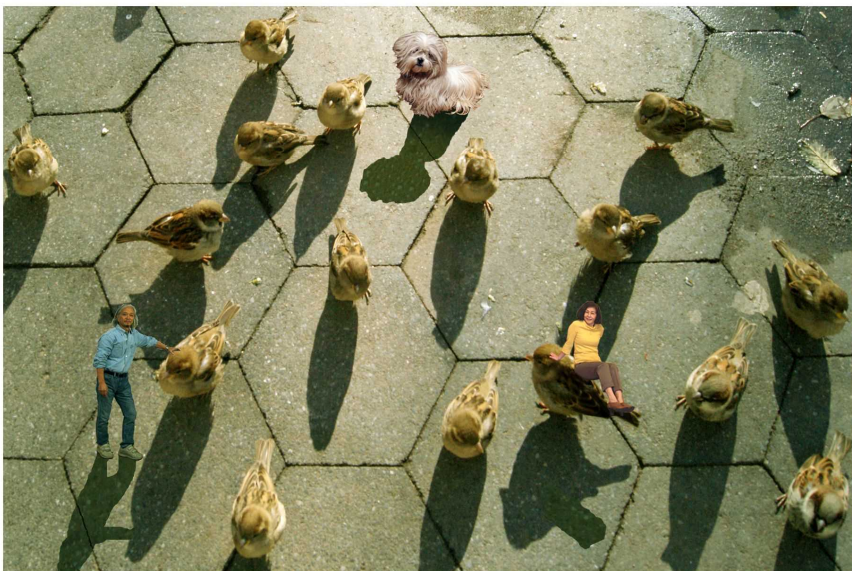


77



身の回りあれこれ からアート(カード)作品

78

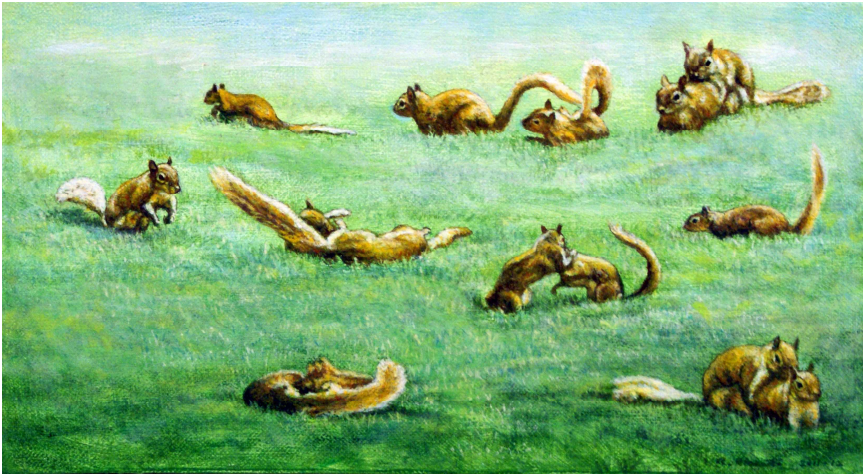


セントラルパークの小動物...『カード作品』として

79



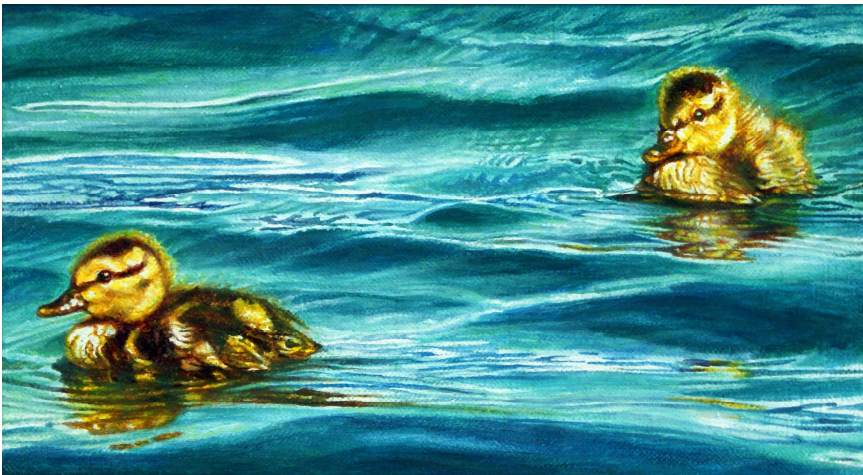
80



81



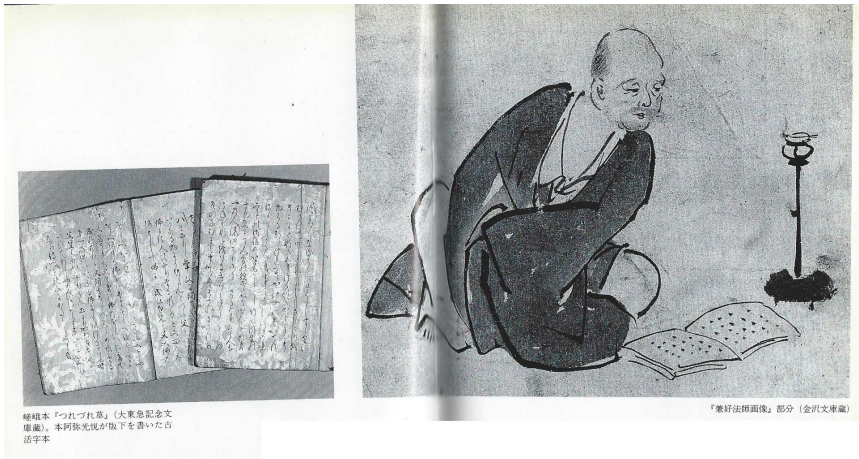
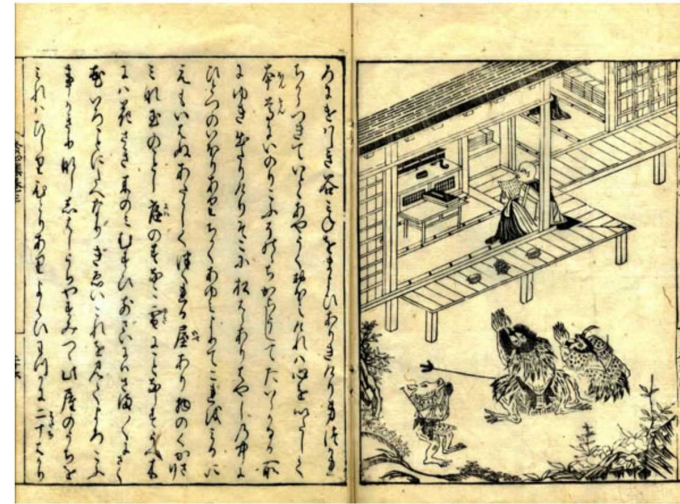
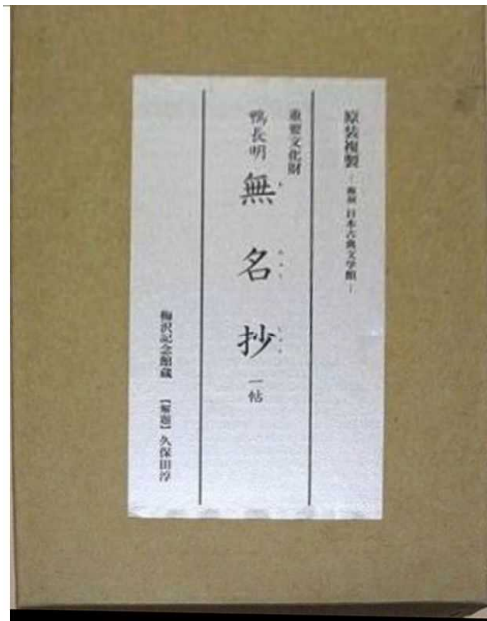
82



83

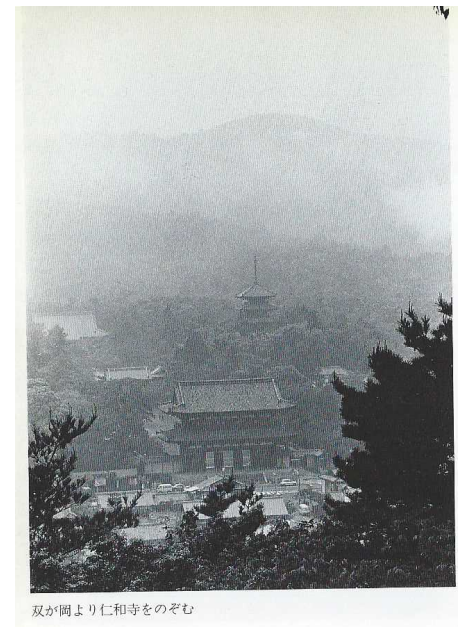


84

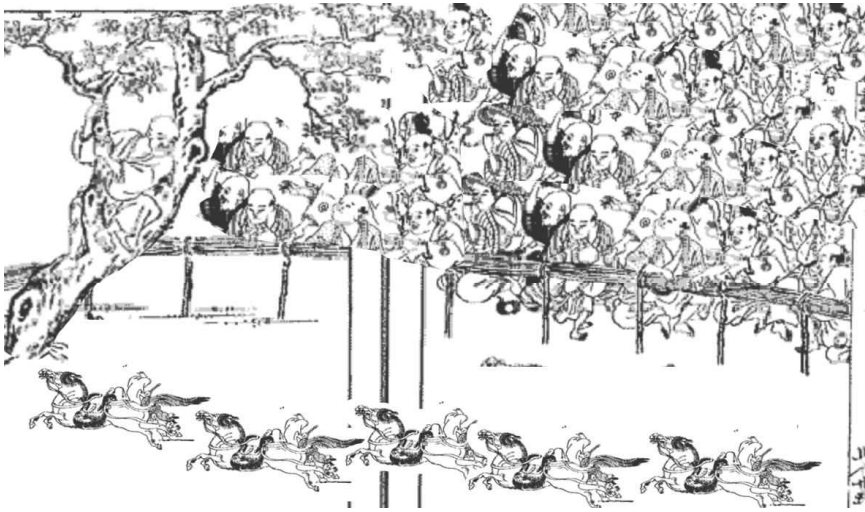


縁起本「つたづれ集」(大東急記念文庫蔵)。本阿弥光悦が版下を書いた白活字本

『兼好法師画像』部分 (金沢文庫蔵)



双か岡より仁和寺をのぞむ

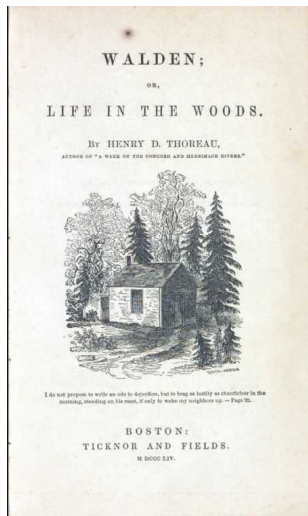


93



94

「森の生活」1845年—1847年



95

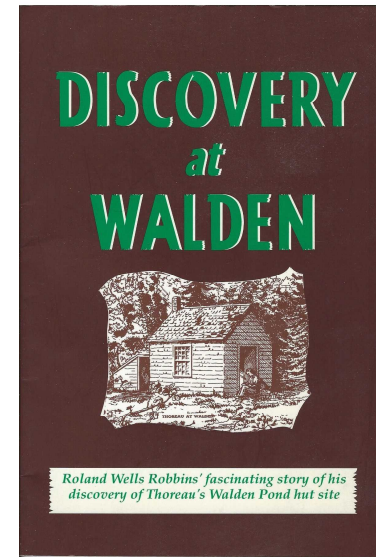


96



97

1945 by Roland Wells Robbins



98



99



小津安二郎 監督

100



101



102



103



104



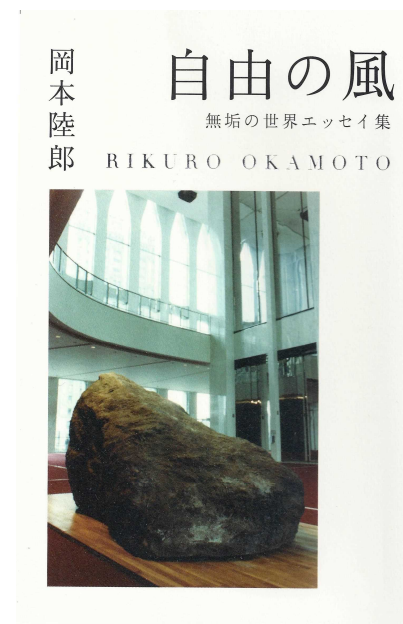
105



106



107



そして、良寛和尚・松尾芭蕉の生き方から

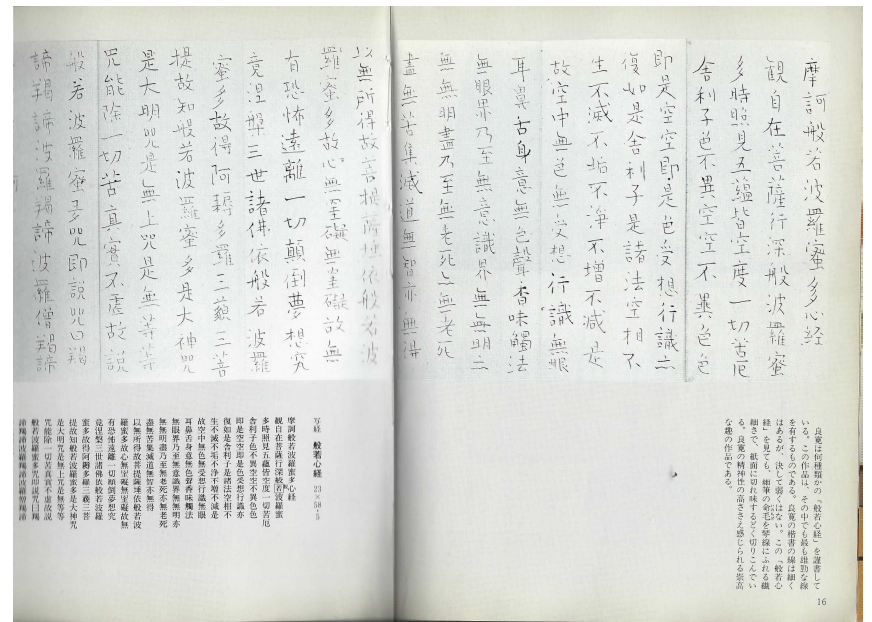
108



五合茶 真実は一出一一の法華を説び、山中秘蔵の修行に日々をくらした



五合茶内部 雪が吹きこみ、舞一物のくらしのまじりが感じられる





与謝蕪村筆「奥の細道屏風」



蕪村筆「奥の細道画卷・那須野」

蕪村筆・芭蕉翁

113



114



115

2015年9月1日

火曜日

116

蔵前-関西午餐会メモ…月例講演の要旨 [第684回]

平成27年9月1日(火) 12時～14時 大阪中央電気倶楽部 317 会議室

出席者 計 35 名

講演 芸術家の生活とはどういうものであるか ～一時代を超えて一貫する芸術家の生活について～

講師： 岡本 陸郎氏 S44 年 金属

- ・ 講演に先立ち、久保田会員からの前説ご紹介…岡本陸郎さん（S44 金属）について紹介。
- ・ 在学中に美術部所属、同期生多くと現在に至るまで親交続いている。
- ・ 学部卒業後に、アーティスト目指して渡米、NY を本拠に米国含む、各国にて活動。
- ・ 絵画・彫刻など多種の作品を制作し、アーティストとして実績重ねる。さらに文筆活動も。
- ・ 大分県に個人美術館を持ち、毎夏に帰国して制作・芸術活動を（クロス芸術・国際水準で）展開中。
- ・ 今年も7/8月を大分で過ごし、先月末に京都へ。兼好・方丈記等ゆかりの事跡の訪問・調査を進めた。

講演概要

芸術家の生活とはどういうものであるか ～一時代を超えて一貫する芸術家の生活について～

幼少時の画塾からスタートして文芸までの多岐にわたるアート活動について、ヒストリー・実例・考え方を解説。

「身近の事物を、自分の眼でとらえ表現する」アーティスト(芸術)活動の神髄を、具体例で説明

結論：こうしたシンプルな日常生活こそ、芸術家のあり様・生きがいである。

講演に対する Q & A… 講演終了後の質疑応答

【Q1】 生来の『絵描き』好きから、なぜ東工大に？

【Ans1】 (絵の世界-道 の狭さを感じていた。より) 広い 世界を観たいと考えて東工大を選択。

結果として(今日の同席友人など) 幅広いの友人を得ることができた。よい選択と受け止めている。

【Q2】 『アーティスト』であって、『絵描き(ペインター)』でないのはなぜか？

【Ans2】 『絵』を、毎日描いている日常である。しかし、より広く活動するため『アーティスト』を志している。

さらに、『アーティスト』として、毎日々々体を動かす、自分の肉体を使うことが、最も大切と考える。

(I T ツールなどを使った、机上 活動ではないことも、その現れである)

【Q3】 アメリカの中で、あえてニューヨークを舞台(生活)としている理由。また (広大・多様の) アメリカ社会をどう考えるか。

【Ans3】 日常で、NYに拘ってはいない。ユタ・西海岸・カリフォルニアなどに多く往来。その多様さも『アート』の一要素。

『アート』世界で、 J. ポロック以降の現代アートとして表現し続けるとき、NYには特有の舞台(環境)ある。

【Q4】 (アーティストとして岡本陸郎の) 究極の目標=希(のぞ)みはなにか？

【Ans4】 一生の中で、1点(できれば以上の)『(自分が) すばらしいモノ』を作りたい。

これは(アートに限らず、音楽他含めて) 『芸術家 共通の 希み』 である、とも考える。

[講演]

【アーティストへの道】

- ・小学生時期を、同級女子生の日本画家父上主催の画塾で過ごす。絵画・芸術の基礎を習得。絵画の道を志す。
(その後は久保田さん紹介の通り、大学卒業から約40年をニューヨークを拠点として、アート作品の制作を続けてきた)
- ・2006に、大分・熊本県境(黒川温泉から10km)に、個人美術館を建設。作風・芸術論を広大な自然の中に具現化してアピールを続けています。(参照用の大分合同新聞コラムを参照下さい)
ここには、作者の芸術活動の原点として、旧師(日本画家)作品の屏風(二曲一隻)も展示している。

対応するスライド番号
(右下部 No.)

P 2 ~ 5

P 6

~ P 7

【アートの特性・必須要素とは】

- ・アート作品とは、オリジナルでかつテクニックを反映したものでなければならない。
- ・セザンヌ・ピカソの作品を実例として解説。
- ・セザンヌの場合『風景(サントヴィクトワール山※1参照)』『静物(卓上の果物ほか※2参照)』『人物(自画像として)』。
- ・ピカソでは『ゲルニカ(部分々々を、慎重かつ自由に集積・構成)』『にわとり(作者の意思・プロセスを具象化)』
『ポートレート写真(パンを自分の手として表現)』
いずれも、オブジェクトを描いているように見えて、じつは作者自身の意思・作者自身を描いている。

P 8

~

13

※1: セザンヌ-故郷エクス山の山を日々様々の感じたままに、限りなく描く。

※2: テーブル上の素材(モチーフ)一つ々々について、その一つ々々がセザンヌに訴える通り(目に見えるままでなく)に、それぞれを描く。

- ・すなわち、作者(アーティスト)は何モノかを(そのまま)描いている様でいて、作品すべて(画面の一つ々々)が『作者(画家)自身の「自画像」』である。
- ・これが、アーティスト(作者自身として)の面白さ(つねに自画像を描く) = 『要するに、作品はいつも岡本自身である』

P 14 ~ 16

【アート作品の実例 ①】…以下、作者(岡本陸郎)の実作品を通じて、その中にある『作者自身』を解説

「動く岩」・「動く壁」…(本来、不動である)巨大なマス(『重量物』)が動く(=アート)

⇒(1) NY セントラルパークの实在物(じつは複製だが)を(ジリジリ)動くものとする。

(2) 実物と同じように形・色・ツヤを形作る。

P 17

(3) そのために、NY市から複製の公的な公認許可を取得する(認許状あり)。

~

(4) メンバー10人×10日かけて、現地でシリコン樹脂&石膏により、型どり(母型作り)する。

27

(5) これを合いマーク&(100pcs)分割して、アトリエに運搬。

(6) アトリエにて、母型復元組立する。(基礎フレーム上に)

(7) (母型の)内部に入り、プラスチックを吹付けて岩(ないし壁体)を形作る(実物と同様に塗装仕上げ)。

P 28

(8) 内部にAI製主フレームとその下にモータ付き台車ユニットを組み付け。

~ 47

(9) 完成品として、指定場所に運び、(動く様に)据付け展示。

このようにして、WTC(911事件で消滅したが)などに展示する。そして、それぞれを随時解説する機会あり。

P 48 ~ 50

	対応するスライド番号
<p>【アート作品の実例 ②】…平素の生活・日常活動の周囲・周辺にある、さまざまモノの存在がアートである</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペインティングによるアート作品について紹介。 ・さまざまのモノを、あるがままに、存在することの感動を、大きく多種類描き、その広大な画面を、広大なバック（自然のなかに）に置いて展示する。 	P 5 1 ~ 5 7
<p>【アート作品の実例 ③】…（世界各地域を巡り）旅のなかで、その土地々々の人・生活習慣に基づく日々を過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そして、その日常（生活のまわりにある）諸々を描き、その作品をその現場に展示する行動がアートである。 ・これを、モンゴル草原でのアート活動 Photo で解説。 同様事例を、コスタリカでの騎馬による渡河で紹介。 ⇒こうした活動から、それぞれ場所の『空の下にある景色』を多数描いている。 	P 5 8 ~ 6 0 ~
<p>【アート作品の実例 ④】…前項③で描いた絵画（縦長の同一サイズ）を、壁面に多数並べて展示・表現する。</p> <p>その一つは、大岡山百年記念館の（ロビー）壁面を構成（縦長で上部過半が様々の空を描いた風景画を 23 枚並べている）</p>	P 6 1 ~ 6 2
<p>【アート作品の実例 ⑤】…こうして描いた作品（『二つとない』自然を描写したもの）を、様々に美術館（等）で展示。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その一部は、大分九重-阿蘇近くの個人美術館で、『あれこれ、身近の自然情景を描いた、アーティスト自身を表現する作品』として展示中 ⇒その事例＝『青葉に佇む青蛙』『草千里の放牧馬・牛』 『同窓生 5 人が阿蘇草原をバックに乾杯（五人の一人々々がそれぞれにその形あり）』 その他 『美術館の周りがある、様々の諸々を、アーティストの感じたままに描いた多くの絵』を展示中。 さらに、広い草原（阿蘇五岳を背景として）の広がりそのままに『広く（超横長に）描いた草原』作品（これを阿蘇に展示） 	P 6 3 ~ 6 9 P 7 0 ~ 7 3
<p>【アーティストの主張（この講演での アピールポイント）】</p> <p>アーティストとして『身の廻りの普通の事物を（アーティストの目で）描く。そこに アート（の神髄）がある』</p>	

	対応するスライド番号
【アート作品の実例 ⑥】 こうした(身の廻りの)諸々事物 それぞれがアートとしての形を持っており、それを絵画・写真さらにカード作品として、その存在を語りかける。その背景をNYのアトリエ等Photo※3で紹介。	P 74 ~
(※3: アーティストの生活断面を、 ・マンハッタン 23 丁目アトリエ (46 年間使用) 内、 ・セントラルパーク、・ジャマイカ地区、・ロングアイランドで撮影したもの)	7 7
・アトリエ内には、手動の各種機械・工具多数=すべてを自分の手・力・行動で作リ、形にする、そのこと自身に意味がある。	
・ここには、これまでの作品あれこれ(その一部)、マイデスク、愛犬 etc.	P 78 ~
・近く(セントラルパーク他)の公園の小動物=スズメ他の野鳥群・リスのパフォーマンスあれこれ・多種の植物・昆虫	8 4
・郊外のジャマイカベイに飛び交う真鴨の群れ他、ロングアイランド突端でアーティスト目がけて飛来するアジサシ鳥の姿など	
【アート作品⇒さらに 文芸の世界(エッセイとして)へ】…身の廻りをどう見るか、捉えるか の背景を考える。	
・鴨長明とその『方丈記』とは(その世界から)	P 85
⇒『方丈庵』での日々を著した、庵スケッチ・日野山での日常を綴っている	
この日々を身辺雑記として書く、そのことを文学として世の中に確立した(させた)、文学作品である。	~
こうした生き方・世の中のあるべき方向・あるべき事物として、しっかり書き記されている。	
⇒『日本独特の 撓(たお)やかで 強(したた)かの 文化』であって、すばらしいとらえ方である。	
同様の趣旨による著書=『発心集』: 世の中の濁りに抗った人(達)の伝説集	9 0
『無名抄』: 歌論書、藤原定家の形式論に対向して、歌表現での自然論を展開している	
・吉田兼好とその『徒然草』について	
⇒仁和寺(御室 門跡寺院)の僧坊(で起きた)トピックを記述したもの	
できごと(事件)を通じて、人のあり方・心のあり様を分析・評論して、『かくあるべき人生』(約150編)を語っている。	
(その例) 小野道風(三筆)の筆になる「和漢朗詠集」出自に関する論争	
日野資朝の老犬(狛犬)に関する言動 など ⇒物事について、合理性とユーモアを大切にすべし がテーマ。	P 91 ~ 94
・ヘンリー・ソー著※4の『森の生活(1845~1847)』 ※4: 「Life in the Woods」by Henry D. Thoreau	
⇒ボストン郊外 WALDEN 池畔りでの「森の小屋(近年に再建された)」での、生活を記述。(シンプル生活の元祖?)	P 95 ~ 99
・小津安二郎の映画作品に現れる「リアリズム」いっぱい日常生活	
⇒典型作品例 『生まれてはみたけれど』・『秋刀魚の味(遺作である)』に、深く共感する。	P 100~107
そこにある、「リアルでユーモア溢れる日常」で、その生活の中に「人生のすべて」がある・存在する。	
そして、こうした諸々のこと・感じている内容が、最初に話した『セザンヌの作品』そして「松尾芭蕉」「良寛和尚」などの生き方・作品に通じる、これこそ「芸術家の日常・生きがい・希み」世界であると考えます。	P 108~115 以上

東西南北
2015.6.11

大分市に開館した県立美術館の豪華さにはかなわないが、小さくとも魅力的な美術館が県内には少なくない。その一つで前から気になっていたのが九州横断道路・瀬の本にある岡本陸郎美術館である▼その斬新な建物も印象的だが、本日の問題は中に展示してある「動く岩」である。作者は美術館設置者でNY在住の岡本陸郎氏。同地のセントラルパーク内にある自然岩をかたどりして作品にし、口本に持ち帰ったものだ▼館内では泰然自若としてこの巨岩が動いているのである。2001年の米同時多発テロで破壊された世界貿易センタービルに一時期展示し、注目されたことがある▼東京生まれの岡本氏は約40年前に渡米し、常識や権威と隔絶した自分だけの世界で創作・活動してきた画家だ。くじゅう高原に魅せられて06年この美術館を建て、岩と自作の絵画の展示を始めた。これまでの芸術家人生を振り返った新著「自由の風―無垢の世界エッセイ集―(幻冬舎ルネッサンス)が今年度の日本エッセイスト・クラブ賞候補になって話題になったばかりの人だ▼岩は米で生まれたミニマルアート(最小限の手段による芸術表現)を一步進めた作品というが、なぜただの自然岩なのか、しかもそれがなぜ動くのかという数年来の疑問がこの著書で解けたので安心した▼芸術家には発想の枯渇と自作が正しく理解されるだろうかという不安が常にあるという。だが岡本さんの著作の中に吹いている自由の心はきっとそれを溶かしてくれるだろう。

◇新聞の購読・配達お申し込み 0120-510-374(平日9～18時) ◇ご意見 097-536-2121(平日9～17時)、Eメール info@oita-press.co.jp

〈大分合同新聞〉

岡本陸郎美術館-紹介名刺から



京滋支部-久保田様による紹介中



講演中の岡本陸郎氏

